2023年度・第5回未来会議（全体会）議事録

鹿ノ台未来まちづくり会議（未来会議）会長　須都　紘
副会長兼書記・広報　伊藤　智子

日時：　2023年8月20（日）13：30～15：20

場所：　西集会所

出席者（順不同、敬称略）：
須都　紘（会長）、黒部　實（副会長）、伊藤　智子（副会長・書記・広報）、
鎌田　卓（事務局長・会計）、山田　勲、黒田　勝行、山田　修、三室　哲哉、
渡辺　昇、田口　信義、中川　浩光、
オブザーバー：　中尾節子
欠席：　平尾　英城、中世古　昭一、山地　祐輔、蔵田　かほり

配布資料：
① 令和5年度第5回（8月度）未来会議（全体会＆分科会）議題（案）
② 鹿ノ台中央公園ワークショップ（5月～7月）結果報告（詳細版）
③ 鹿ノ台中央公園に Wi-Fi 環境を整備する提案
④ Wi-Fi ルーター導入比較表
⑤ 鹿ノ台春まつり　開催のお知らせと出演・出店・参加の募集のご案内
⑥ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線　実証運行　乗車実績（人数）R5.7月度
⑦ 生駒市コミバス『たけまる号』鹿ノ台線 実証運行実績分析【令和5年7月度】
⑧ 鹿ノ台コミバス実証運行　利用状況まとめ

会長挨拶

・先日の第45回納涼祭は非常に盛況であった。数か月にわたる準備から実施までを担当された実行委員会と関係者の皆さまのご尽力とご協力に感謝と敬意を表したい。
・今年7月は観測史上最も暑い月となった。異常気象がニューノーマルになりつつあり、生活スタイルもこれに準じて変えていく必要がある。水分をこまめにとり、冷房を入れ、熱中症対策をしながら会議を行いたい。
・本日は、子育て分科会が実施してきた「鹿ノ台中央公園をもっと楽しむためのワークショップ」全3回が7月22日に終了したので、その総括と今後の展開について発表してもらう。
・また、未来会議と自治連合会の連絡会（意見交換会）の日程を決定し、話し合いのテーマについて結論を出していきたい。

子育て分科会報告

「鹿ノ台中央公園をもっと楽しむためのワークショップ」結果概要：

・今年5月から7月にかけて月1回、全3回実施してきたワークショップ（話し合い）について、結果報告と今後の展開について報告する。
・このワークショップは、鹿ノ台を「子育てしやすいまち」「子どもを大切にするまち」にすることで、子育て世代の地域での生活満足度を上げること、そのことを通じた、さらなる子育て世代の転入促進を目標としている。
・その第一歩として、鹿ノ台のシンボルである、住宅地の中心に位置する広大な中央公園を利活用していくプロジェクトを立ち上げた。第1弾として「アイデア募集」を行い、第2弾として「ワークショップ」を実施した。
・ワークショップには、未就学児から大学生までの子ども・若者から、子育て世代、熟年世代まで、幅広い層が参加して下さった。また、生駒市みどり公園課からも参加して頂き、生駒市の公園の利活用に関わる情報を提供していただいた（第1回、第2回）。第2回には朝日新聞の記者さんも参加され、記事にして下さった（朝日新聞7月13日朝刊）。
・ワークショップでは、さまざまなアイデアが出されたが、最終的に9つの案に絞り込んだ。それぞれの案ごとにリーダーとチームメンバーを決定し、実現に向けて企画を進めていくこととなった。
・それぞれのチームには、子育て分科会メンバーが「連絡係」として参加しており、未来会議や自治連合会に協力や承認を求める必要性などを適宜判断し、つないでいく役割を果たすことになっている。

9つの企画案：

① ビニールプールを持ち寄り遊ぶ会
8月26日と9月10日に実施予定。すでに結ネットにて告知済み。
② フリーマーケット
オータムフェスタの「合同蚤の市」に子育て関連グッズを中心に出店予定。
③ 雪を運び込んで「雪まつり」
壱分の「やまびこネットワーク」の先例を調べて検討を進める。
④ 鹿ノ台公園クイズ大会
鹿ノ台の各公園を巡ってクイズに答える半日程度のイベント、またはQR コードを活用したクイズウィークのどちらかの形式で実施予定。
⑤ お月見会
お月見とキャンドルナイトを組み合わせたようなイベントを検討中。
⑥ 情報サイトの立ち上げ
「鹿ノ台 Women’s Base」という情報サイトを立ち上げ、運用開始。
⑦ Wi-Fi 環境の整備
子どもたちの外遊び促進のため、自治連合会に整備を提案する。
⑧ 立水栓に広めのシンクを付ける
子どもの水遊びに活用するため、費用の面を含め生駒市に相談。
⑨ 水とお茶の自動販売機を設置
熱中症対策および災害時の飲料提供のため、トイレ周辺等に設置する方向で検討中。

Wi-Fi 環境整備に関する提案：

・ベンチのある場所にWi-Fi環境を整備し、子どもたちの外遊びを促すことで、学年の垣根を超えた子ども同士の付き合いを促進し、地域に対する愛着を育みたい。大人もデータ通信料金を気にせずにオンラインで公園の木や花の名前を調べたり、音楽を聴いたりできるようになる。
・Wi-Fi ルーターは各社とも実質無料で設置でき、通信料は月5000円程度（年間6万円ほど）である。現在、現地における実際の電波状況やルーターの性能、契約内容などを調査中である。提案がまとまり次第、未来会議に提案し、その後、自治連合会に提案させていただきたい。

意見： 接続速度は十分なのか。また、災害時に使うためには、接続できる台数は多ければ多いほど良い。
回答： ダウンロード速度は、ルーターの性能というよりは、電波がどの程度来ているかに依存するので、どの契約にするかは実測値に基づき決めていきたい。接続台数は、災害時の活用までは考えていないので、最大で60台程度を考えている。
質問： トイレ周辺の電源を使うとすると、南の水栓周辺のベンチまで電波が届かないのではないか。
回答：「増幅器増設可能」なルーターがある。これを使えば、電波を利用する地点で増幅することができる。ただし、時間帯によっても電波状況は違うし、実測値を確約できる販売店はないので、実際にどの程度使えるのかは予測が難しい。
質問： 各社のアンテナはどこにあるのか。
回答： 西3丁目から鹿畑に下りて行く道のところに携帯のアンテナが複数立っている。ただ、中央公園の北西部分が高いので、ステージのあたりは電波が入りにくい可能性がある。
質問： どの契約でも年間6万円程度だとすると、自治連合会が6万円を出す気があるのかどうかを確認しないと、詳細を検討しても無駄になるのではないか。自治連合会に意思表示してもらいたい。
意見： 全体の提案の内容をまとめてもらい、その内容に納得したら自治連合会が決断するという順番だ。
意見： フリーWi-Fi を設置する動きは広がっているのか。利用者は増えているのか。公園でまでスマホをする必要はないのではないか。スマホ利用を巡る犯罪も増えている。
意見： 平時の見守り、非常時の防災などの目的で、ポールの上にソーラー発電や Wi-Fi、ディスプレイなど付けた設備で大学構内にネットワークを張り巡らせるという動きがある。単に子どもたちの遊びのためだけでなく、そういうより広い視点から、この提案に関心を持っている。
回答： 最近は、ショッピングモールでも電車の中でも、どこに行ってもフリーWi-Fi が使える状況になって来た。若い世代は、お財布と同様に、あるいはお財布の代わりにスマホを肌身離さず携帯している。国内人口の8割がスマホを持っており、小学生も半数以上が持っている。スマホがらみの犯罪については、学校でも情報リテラシー教育が必修になっており、危険だから使用しないのではなく、ICT 機器の活用を前提に教育活動を進めている。そういう時代背景の中で、公園に Wi-Fi を整備しているまちというのは、若い世代に訴求力があると考える。
情報： いきいきホールも北集会所でも Wi-Fi が使えるようになっている。南集

会所もキャリアとの契約はまだだが、器材は準備できている。
意見： 子どもたちが Wi-Fi を通じてインターネットに自由にアクセスできるようになるのであれば、セキュリティについて考える必要がある。小中学校でも、行けるサイトには制限をかけている。また、運用するには、管理責任者を決めておく必要がある。器材に関しても、公共の場合は業務用でないと複数の同時接続は難しい。家庭用の契約にするのであれば、有線の契約の方が良いのではないか。
⇒ 皆さんのご意見を参考に、提案をまとめて再度提案させていただく。

子育て分科会のリーダーについて：

・前任者が辞退され、現在、リーダー不在となっているため、分科会で話し合い、新リーダーを決めて全体会に報告して欲しい。
⇒ 承知した。

鹿ノ台春まつりについて

・「開催のお知らせと出演・出店・参加の募集のご案内」（案）を作成した（A3見開き裏表）。イベントは8種類を考えている。
・そのうち、募集するのは①コンサート出演②マルシェ・フリーマーケット出店⑤同好会模擬演技出演⑥会場での創作活動（絵画、写真、川柳などの作品制作）の4種類。9月初頭に回覧し、出演・出店・参加の締め切りは9月30日とする。

意見： 納涼祭、歩こう会、オータムフェスタ、音楽祭など、すでにいろいろイベントがあるなか、実施に関わる人々は疲れてきている。裏方は大変である。それでもイベントを増やすのはなぜか。
回答： 春の屋外イベントがないなか、昨年春に「森のコンサート」を実施し、好評だったので、よりたくさんの方に関わっていただく形の春まつりを企画した。
意見： 桜回廊見学ツアーも計画されているが、桜が元気がなくなっても、植樹も反対されてできていない。地球環境が危うい中、少しでも緑を増やしたいと思ってやってきたが、身近な緑は落ち葉の手入れが大変だと反対される。忸怩たる思いだ。他方で、イベントだけが次から次へと企画され、毎回裏方を務めるのは疲れる。70代80代の人は40年間頑張ってきた。次の世代に頑張ってもらいたい。
意見： 今年の納涼祭は若年層の参加が多かった。もっと若い人が企画の中心となるようにすべきだと思う。連合会でも若手が中心となり、これまでとは違った視点で企画が進んでいる。たとえば、歩こう会はリニューアルして運動公園で実施される。あすか野の自治会も現役世代が中心である。本来は、現役世代が仕事をしながらでも担える自治会活動とすべきである。変えていくためのアイデアが必要だ。
意見： 自治会活動は、皆ができる範囲で参加し、できることをやっていくのが基本である。手を広げ過ぎて継続できないのであれば縮小すべきである。今後、自治連合会とも話し合っていきたい。
意見： 納涼祭には2500～3000人ほど来ていたと思うが、70代以上は2割もいなかったと思う。ほとんどが40代以下だった。イベントは若者向けに企画していかなければいけないと思う。他方で、60代以上の人の自治会活動（老人会などを含め）への参加が減っている。私たちは、家から出られない高齢の方たちに

対してどんな福祉活動を行っていくかを、もっと考えるべきだ。

支え合い委員会

・支え合い委員会の活動紹介冊子を全戸配布したが、意図がなかなか伝わっていないようであり、要望がほとんどない。営利目的ではないので、是非、皆さんに気軽に使っていただけるよう、皆さまからも広めて欲しい。
・今朝は、パナック伊藤さんからのご紹介で、電球交換の要望があった。
・ゴミ関係ではいくつか案件があり、黒田さんに動いて頂いている。

情報： まちづくり会と支え合い委員会は、共同で大阪大学のプロジェクトに協力している。これは、社会的孤立の防止・早期検知を行い、該当する人を地域や医療機関とつなぐプロジェクトである。7月27日・30日の2日間、1日目は北桜美会・西桜美会、2日目は東桜美会・南桜美会から合計49名の方に参加して頂き、アンケート（20分）と精神状態を問う先生との1対1の面談を実施した。その結果、社会的孤立の心配がある方が5名おられた。うち1名は阪大病院の受診につなげることができた。他の方に関しては、所属の老人会の長や地域包括センター、近隣住民などが連携して支える仕組みづくりを進めていこうとしている。参加者には、結果に応じて注意すべきことなどのアドバイスが行われた。
質問： これは隠れた認知症を発見する試みだと思うが、その結果によって潜在的に認知症の方が何人くらいいるのか推測できるのか。
意見： このプロジェクトは隠れた認知症を発見する試みの一つではあると思うが、統計的な考え方で予測を出すことが目的ではなく、実際に気を付けた方が良い人を早期に検知して、社会生活ができる精神状態にするためのサポートを行うことを目的としている。また、これとは別に、鹿ノ台では10人程度が外出や風呂に入る頻度等のモニタリングに協力している。ただ、本当に心配な人には、声をかけても参加して頂けないことが多いのが課題だ。

令和5年度未来会議と自治連合会との連絡会について

・未来会議が発足した際、自治連合会との緊密な連携のもと、取り組みを進めていくこととされた。そのために連絡会を実施し、情報交換や課題の共有を行っている。1年目と2年目は年1回、ふれあいホール大集会室を借りて、未来会議メンバー全員と自治連合会役員全員で、連絡会を開催してきた。
・話し合いを充実させるため、人数を絞って実施したいという連合役員会の意向を受け、本年度の連絡会（意見交換会）の日程および内容は、以下の通りに決定した。
⇒ 日程は11月23日（祝）の9：30～（いきいきホール大会議室）
⇒ 参加者は、自治連合会からは連合会長・連合副会長4名・顧問の合計6名＋有志、未来会議からは幹事会メンバー4名＋有志の合計12～13名。参加を希望される未来会議メンバーは須都会長まで連絡して欲しい。
⇒討論のテーマは、10月の連合役員会で話し合って決める。

意見： 討論テーマとして提案がある。以前、自主防災会のアンケートで避難の

際に付き添いが必要と答えた二百十数名の方に、どのような対応を行っていくべきか、検討して欲しい。
回答： そのアンケートは2年に1回行っており、付き添いが必要と答えた方の自宅にマーキングした地図が各自治会長に配布されている。
回答： 市から依頼されている要付き添い者は、鹿ノ台全体で10～20人ほどであり、各自治会長が把握しており、対応する人も決まっている。しかし、自主防災会のアンケート結果は、各自治会での対応事項とは理解されておらず、対応ができていない。
回答： 近隣交流を通じて、要付き添い者1名に対して複数名が見守るような仕組みができれば良いが、支援者を一人ひとりに割り当てていくのは難しいだろう。自主防災会と一緒に検討していくしかない。

鹿ノ台コミバス月度乗車実績について（報告）

7月度の乗車実績：

・R5年7月の実証運行の日数は12日、乗車実績は累計681人、一日あたり平均56．8人、1便当たりは7．1人と増えている。50人を超えた日は9日、60人を超えた日は4日あった。
・午前乗車の割合は58％、午後乗車の割合が42％であり、年間を通じて午前乗車が多かった。いそかわ協賛キャンペーンのお陰もあり、いきいきホール前での降車は16％（110人）を占めている。
・登美ヶ丘まで行く利用者は38％、うち午前中が75％、午後が25％である。登美ヶ丘からの乗車は42％と、駅まで（から）の利用が4割以上を占めている。
・地区別の乗車割合は、いきいきホール前での乗車を除くと、東地区31％、西地区21％、南地区17％、北地区31％である。
・実証運行が始まった昨年8月から今年7月までの1年間の乗車実績は、昨年の8月と9月は多かったが、10月から今年1月は若干減少傾向にあった。しかし2月以降は増加に転じ、7月は最高を記録した。

1年間の実証運行の結果と本格運行への移行に向けたプロセス：

・年間の運行日数は147日、利用者合計は6,919人、1日あたり平均は47．1人だった。収入比率は昨年10月から今年1月までは基準値（30％）を下回ったが、徐々に改善し、7月は35％を上回った。年間では31．1％であり、本格運行を判断する市の基準はクリアした。
・運行経費は5，142,816円だった。運行収入は、運賃収入が1,126,458円、生駒市統一コミバス基本料金200円との差額（10円）分の自治会補助が69,190円、路線バスとの重複区間の自治会負担分が403,711円、生駒市補助が3，543,457円だった。
・本格運行に移行するかどうかの住民の意思確認（賛成あるいは反対）は、9月に連合総会を開催し、そこで行われる。その意思確認をうけて、生駒市公共交通活性化協議会において最終決定がされる。本格運行が決定されれば、来年1月から実施されることになる。

次回

日時:　2023年9月17日(日) 13:30～16:30
第I部　全体会 13:30～15:10
第II部　分科会 15:15～16:30

「南北」の構成員および幹事は13:15集合

場所:　西集会所

以上